

[illegible]

別表 2

自主検査チェック表（日常）「火気関係」

____月____

実施責任者						担当区域			
日	曜 日	実 施 項 目							
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									

(備考) 不備・欠陥がある場合は、直ちに防火管理者に報告します。

(凡例) ○…良 ×…不備・欠陥 △…即時改修

防火管理者 確 認	
--------------	--

別表 3

自主検査チェック表（日常）「閉鎖障害等」

実施責任者					担当範囲					
実施日時										
実施項目		確認箇所	チェック状況		チェック状況		チェック状況		チェック状況	
避難障害										
閉鎖障害										
操作障害等										
備 考										
(備考) 不備・欠陥がある場合は、直ちに防火管理者に報告します。 (凡例) ○…良 ×…不備・欠陥 △…即時改修							防火管理者 確 認			

別表 4

自主検査チェック表（定期）

実 施 項 目		確 認 箇 所	検査結果		
建 物 構 造	(1) 基礎部	上部の構造体に影響を及ぼす沈下・傾き・ひび割れ・欠損等がないか。			
	(2) 柱・はり・壁・床	コンクリートに欠損・ひび割れ・脱落・風化等はないか。			
	(3) 天井	仕上材にはく落・落下のおそれのあるたるみ・ひび割れ等がないか。			
	(4) 窓枠・サッシ・ガラス	窓枠・サッシ等には、ガラス等の落下又は枠自体の外れのおそれのある腐食、緩み、著しい変形等がないか。			
	(5) 外壁（貼石・タイル・モルタル・塗壁等）・ひさし・パラペット	貼石・タイル・モルタル等の仕上材に、はく落・落下のおそれのあるひび割れ・浮き上がり等が生じていないか。			
	(6) 屋外階段	各構成部材及びその結合部に、緩み・ひび割れ・腐食・劣化等はないか。			
	(7) 手すり	支柱が破損・腐食していないか。取付部に緩み・浮きがないか。			
	(8) 消防隊非常用進入口	表示されているか、また、進入障害はないか。			
防 火 施 設	(1) 外壁の構造及び開口部等	① 外壁の耐火構造等に損傷はないか。 ② 外壁の近く及び防火戸の内外に防火上支障となる可燃物の堆積及び避難の障害となる物品等を置いていないか。 ③ 防火戸は円滑に開閉できるか。			
	(2) 防火区画	① 防火区画を構成する壁、床に破損がないか。 ② 階段内に配管、ダクト、電気配線等が貫通していないか。 ③ 自動閉鎖装置（ドアチェック等）付の防火戸等のくぐり戸が最後まで閉まるか。 〔確認要領〕・常時閉鎖式は最大限まで開放して閉まるのを確認する。 ・煙感知器連動閉鎖式は、防火戸を止めているマグネット等を手動により外し自動的に閉鎖するのを確認する。 ④ 防火シャッターの降下スイッチを作動させ、防火シャッターが最後まで降下するか。 ⑤ 防火戸・防火シャッターが閉鎖した状態で、隙間が生じていないか。 ⑥ 防火ダンパーの作動状況は良いか。			
避 難 施 設	(1) 廊下・通路	① 有効幅員が確保されているか。 ② 避難上支障となる設備・機器等の障害物を設置していないか。			
	(2) 階段	① 手すりの取付部の緩みと手すり部分の破損がないか。 ② 階段室の内装は不燃材料になっているか。 ③ 階段室に設備・機器等の障害物を設置していないか。 ④ 非常用照明がバッテリーで点灯するか。			
	(3) 避難階の避難口（出入口）	① 扉の開放方向は避難上支障ないか。 ② 避難扉の錠は内部から容易に開けられるか。 ③ 避難階段等に通ずる出入口の幅は適切か。 ④ 避難階段等に通ずる出入口・屋外への出入口の付近に障害物はないか。			
火 気 使 用 設 備 器 具	(1) 厨房設備（大型レンジ、フライヤー等）、ガスコンロ、湯沸器	① 可燃物からの離隔距離は適正か。 ② 安全装置は取り付けられているか。 ③ 異常燃焼時に安全装置は適正に機能するか。 ④ ガス配管に亀裂や劣化、損傷している箇所はないか。 ⑤ 油脂分を発生する器具の天蓋及びグリッドフィルターを清掃しているか。 ⑥ 排気ダクトの排気能力は適正か、また、ダクトを清掃しているか。			
	(2) ガスストーブ、石油ストーブ	① 自動消火装置は適正に機能するか。 ② 火気周囲は整理整頓されているか。			
電 気 設 備	(1) 変電設備	① 電気主任技術者等の資格を有する者が検査を行っているか。 ② 変電設備の周囲に可燃物を置いていないか。 ③ 変電設備に異音、過熱はないか。			
	(2) 電気器具	① たこ足の接続を行っているか。 ② コードを束ねたまま使用していないか。 ③ コードがオフィス家具等の下敷きになっていないか。 ④ 許容電流の範囲内で電気器具を適正に使用しているか。 ⑤ プラグは緩みなく差し込まれているか。 ⑥ トラッキング防止のため、プラグの清掃をしているか。 ⑦ トラッキング防止カバーや耐トラッキング性のあるプラグを使用しているか。 ⑧ 使用しない電気器具はプラグをコンセントから外しているか。			
危 険 物 施 設	(1) 少量危険物貯蔵取扱所	① 標識は掲げられているか。 ② 掲示板（類別・数量等）の記載は正しいか。 ③ 換気設備は適正に機能しているか。 ④ 容器の転倒・落下・移動防止措置はあるか。 ⑤ 整理清掃状況は適正か。 ⑥ 危険物の漏れ、あふれ、飛散はないか。 ⑦ 屋内タンク、地下タンクの通気管のメッシュは破れていないか。			
	(2) 指定可燃物貯蔵取扱所	① 標識は掲げられているか。 ② 貯蔵取扱所周囲に火気はないか。 ③ 整理整頓（集積）の状況は良いか。			
検査実施者氏名		検査実施日	検査実施者氏名	検査実施日	防火管理者確認
構造関係 _____		年 月 日	火気使用設備器具 _____	年 月 日	
防火関係 _____		年 月 日	電気設備 _____	年 月 日	
避難関係 _____		年 月 日	危険物施設 _____	年 月 日	

(備考) 不備・欠陥がある場合は、直ちに防火管理者に報告します。

(凡例) ○…良 ×…不備・欠陥 △…即時改修

別表 5

消防用設備等・特殊消防用設備等自主点検チェック表

実施設備	確認箇所	点検結果
消火器 (年 月 日実施)	(1) 設置場所に置いてあるか。 (2) 消火薬剤の漏れや外観に変形、損傷、腐食等がないか。 (3) 安全栓が外れていないか。安全栓の封が脱落していないか。 (4) ホースに変形、損傷、劣化等がないか。 (5) 蓄圧式の場合は、指示圧力計が指示範囲内にあるか。 (6) 標識が見やすい位置に付けられているか。 (7) 使用期限は過ぎていないか。	
屋内消火栓設備 泡消火設備（移動式） (年 月 日実施)	(1) 使用上の障害となる物品が置かれていないか。 (2) 消火栓扉は、確実に開閉できるか。 (3) ホース、ノズルが接続され、変形、損傷はないか。 (4) 表示灯は、点灯しているか。	
スプリンクラー設備 (年 月 日実施)	(1) 散水の障害はないか（例 物品の積み重ね等）。 (2) 間仕切り、棚等の新設による未警戒部分はないか。 (3) 送水口の周りに障害はないか（樹木や植え込み、物品の積み重ね、自転車の駐輪等）。 (4) 送水口の変形や操作の障害はないか。 (5) スプリンクラーのヘッドに漏れ、変形はないか。 (6) 制御弁を閉鎖していないか。	
水噴霧消火設備 (年 月 日実施)	(1) 散水の障害はないか（例 物品の積み重ね等）。 (2) 間仕切り、棚等の新設による未警戒部分はないか。 (3) 管、管継手に漏れ、変形はないか。	
泡消火設備（固定式） (年 月 日実施)	(1) 泡の散布を妨げる物品がないか。 (2) 間仕切り、棚等の新設による未警戒部分はないか。 (3) 泡ヘッドに詰まり、変形等はないか。 (4) 手動起動弁の周囲に操作障害となる物品はないか。 (5) 手動起動弁に対応する放射区域を把握しているか。	
不活性ガス消火設備 ハロゲン化物消火設備 粉末消火設備 (年 月 日実施)	(1) 起動装置又はその直近に防護区画の名称、取扱方法、保安上の注意事項等が明確に表示されているか（手動式起動装置）。 (2) 手動式起動装置の直近の見やすい箇所に「不活性ガス消火設備」「ハロゲン化物消火設備」「粉末消火設備」の表示が設けてあるか。 (3) スピーカー及びヘッドに変形、損傷、つぶれなどはないか。 (4) 貯蔵容器の設置場所に標識が設けてあるか。	
屋外消火栓設備 (年 月 日実施)	(1) 使用上の障害となる物品はないか。 (2) 消火栓扉の表面には、「消火栓」又は「ホース格納箱」と表示されているか。 (3) ホース、ノズルに変形、損傷はないか。	
動力消防ポンプ設備 (年 月 日実施)	(1) 常置場所の周囲に、使用の障害となるような物品がないか。 (2) 車台、ボディー等に割れ、曲がり及びボルトの緩みがないか。 (3) 管そう、ノズル、ストレーナー等に変形、損傷がないか。	
自動火災報知設備 (年 月 日実施)	(1) 表示灯は、点灯しているか。 (2) 用途変更、間仕切り変更による未警戒部分がないか。 (3) 感知器の破損、変形や脱落はないか。 (4) 発信機の周りに障害となる物品を置いていないか。 (5) 受信機のスイッチはベル停止となっていないか。 (6) 警戒区域一覧図は受信機のそばにあるか。 (7) 受信機の周りに障害となる物品は置いていないか。 (8) 連動スイッチを停止していないか。	
ガス漏れ火災警報設備 (年 月 日実施)	(1) 表示灯は点灯しているか。 (2) 受信機のスイッチはベル停止となっていないか。 (3) 用途変更、間仕切り変更、ガス燃焼機器の設置場所の変更等による未警戒部分がないか。 (4) ガス漏れ検知器に変形、損傷、腐食等がないか。	
消防機関へ通報する 火災報知設備 (年 月 日実施)	(1) 通報回線は、維持されているか。 (2) 自動火災報知設備と連動するものは、連動停止されていないか。 (3) 操作障害はないか。 (4) 通電ランプは、点灯しているか。	
非常ベル (年 月 日実施)	(1) 表示灯は点灯しているか。 (2) 操作上障害となる物品がないか。 (3) 押しボタンの保護板に破損、変形、損傷、脱落等がないか。	
放送設備 (年 月 日実施)	(1) 電源監視用の電源電圧計の指示が適正か、電源監視用の表示灯が正常に点灯しているか。 (2) 放送設備により、放送ができるか（音量は明瞭か）。	
避難器具 (年 月 日実施)	(1) 避難に際し、容易に接近できるか。 (2) 格納場所の付近に物品を置いて、避難器具の所在が分かりにくくなっていないか。 (3) 開口部付近に物品を置いて、開口部を塞いでいないか。 (4) 降下する際に障害となる物品がなく、必要な広さを確保しているか。 (5) 標識に変形、脱落、汚損がないか。 (6) バルコニーの隔板の周囲に物品を置いていないか。	
誘導灯 (年 月 日実施)	(1) 改装等により、設置位置が不適正になっていないか。 (2) 誘導灯の周囲に、間仕切り、ついたて、ロッカー、チラシ等があつて、見えにくく（視認障害）になっていないか。 (3) 外箱及び表示面は、変形、損傷、脱落、汚損等がなく、かつ、適正な取付状態であるか。 (4) 不点灯、ちらつき等がないか（非常電源の確認）。	
消防用水 (年 月 日実施)	(1) 周囲に樹木等使用上の障害となる物品がないか。 (2) 道路から吸管投入口又は採水口までに消防自動車の進入通路が確保されているか。 (3) 地下式の防火水槽、池等は、水量が著しく減少していないか。	
連結散水設備 (年 月 日実施)	(1) 送水口の周囲は、消防自動車の接近に支障がないか、また、送水活動に障害となる物品がないか（樹木や植え込み、物品の積み重ね、自転車の駐輪等）。 (2) 送水口に変形、損傷、著しい腐食等がないか。 (3) 散水ヘッドの各部に変形、損傷、腐食等がなく、扉の開閉に異常がないか。 (4) 放水口の弁を閉鎖しているか。 (5) 散水ヘッドの周囲には、散水を妨げる広告物、棚等の障害物がないか。	
連結送水管 (年 月 日実施)	(1) 送水口の周囲は、消防自動車の接近に支障がないか、また、送水活動に障害となる物品がないか（樹木や植え込み、物品の積み重ね、自転車の駐輪等）。 (2) 送水口に変形、損傷、著しい腐食等がないか。 (3) 放水口の周囲には、ホースの接続や延長等の使用上の障害となる物品がないか。 (4) 放水口を格納する箱は、変形、損傷、腐食等がなく、扉の開閉に異常がないか。 (5) 放水口の弁を閉鎖しているか。	
非常コンセント設備 (年 月 日実施)	(1) 周囲に使用上障害となる物品がないか。 (2) 保護箱は変形、損傷、腐食等がなく、容易に扉が開閉できるか。 (3) 表示灯は、点灯しているか。	
検査実施者氏名	防火管理者確認	

(備考) 不備・欠陥がある場合は、直ちに防火管理者に報告します。(凡例) ○：良 ×：不備・欠陥 △：即時改修

消防用設備等・特殊消防用設備等点検計画表

消防用設備等・特殊 消防用設備等の種類	点検の区分 機器点検	総合点検
------------------------	---------------	------

※ 消防用設備等・特殊消防用設備等の点検を点検会社と契約している場合

点 検 会 社	
住 所	
電 話 番 号	

別表 7

自衛消防隊の編成と任務（その 1 本部隊）（例）

自衛消防隊本部長 _____（自衛消防隊に対する指揮、命令、監督等を行う。） 自衛消防隊長 _____（自衛消防隊本部長が不在の場合は、その任務を代行する。） 自衛消防副隊長 _____（隊長を補佐し、隊長が不在時は、その任務を代行する。）				
本部隊の編成（平常時）		平常時の任務	警戒宣言、津波警報等発令時の隊編成と任務	
指 揮 班	_____	1 隊長、副隊長の補佐 2 自衛消防本部の設置 3 地区隊への命令の伝達並びに情報の収集 4 消防隊への情報の提供並びに災害現場への誘導 5 その他指揮統制上必要な事項	情報収集班として編成する。	1 テレビ・ラジオ等により情報を収集し、各階に連絡する。 2 周辺地域の状況を把握する。 3 放送設備、掲示板、携帯拡声器等により在館者に対する周知を図る。 4 食料品、飲料水、医療品等及び防災資機材の確認をする。 5 在館者の調査
通報連絡班	_____	1 消防機関への通報並びに通報の確認 2 館内への非常通報並びに指示命令の伝達 3 関係者への連絡（緊急連絡一覧表による。）		
消 火 班	_____	1 出火階に直行し、屋内消火栓設備による消火作業に従事 2 地区隊が行う消火作業への指揮指導 3 消防隊との連携及び補佐	点検措置班として編成する。	建物構造、防火設備、避難施設、電気、ガス、エレベーター、消防用設備等・特殊消防用設備等、危険物の点検及び保安の措置を行う。
避難誘導班	_____	1 出火階並びに上層階に直行し、避難開始の指示命令の伝達 2 非常口の開放並びに開放の確認 3 避難上障害となる物品の除去 4 逃げ遅れた者の確認及び本部への報告 5 ロープ等による警戒区域の設定	平常時と同様の編成とする。	混乱防止を主眼として、退館者の案内及び避難誘導を行う。
安全防護班	_____	1 火災発生地区へ直行し、防火シャッター、防火戸、防火ダンパー等の閉鎖 2 非常電源の確保、ボイラー等危険物施設の供給運転停止 3 エレベーター、エスカレーターの非常時の措置	点検措置班として編成する。	上記の消火班の任務に同じ。
応急救護班	_____	1 応急救護所の設置 2 負傷者の応急処置 3 救急隊との連携、情報の提供	情報収集班として編成する。	上記の指揮班と通報連絡班の任務に同じ。

自衛消防隊の編成と任務（その２ 地区隊）（例）

地区隊長（担当区域の初動措置の指揮体制を図るとともに自衛消防隊長（本部）への報告連絡を行う。）		
地 区 隊 の 編 成（平 常 時）		
__階 地区隊長 _____ 通報連絡担当 _____ 消火担当 _____ 避難誘導担当 _____ 安全防護担当 _____ 応急救護担当 _____ __階 地区隊長 _____ 通報連絡担当 _____ 消火担当 _____ 避難誘導担当 _____ 安全防護担当 _____ 応急救護担当 _____ __階 地区隊長 _____ 通報連絡担当 _____ 消火担当 _____ 避難誘導担当 _____ 安全防護担当 _____ 応急救護担当 _____ __階 地区隊長 _____ 通報連絡担当 _____ 消火担当 _____ 避難誘導担当 _____ 安全防護担当 _____ 応急救護担当 _____		
平常時の任務		警戒宣言、津波警報等発令時の隊編成と任務
通 報 連 絡 担 当	防災センターへの通報及び隣接各室への連絡	情報収集担当として編成し、テレビ、ラジオ、インターネット等により情報を収集する。
消 火 担 当	消火器等による初期消火及び本部隊消火班の誘導	点検担当として編成し、担当区域の転倒・落下・移動防止措置を行う。
避 難 誘 導 担 当	出火時における避難者の誘導	平常時と同様の編成とし、本部の指揮により、避難誘導を行う。
安 全 防 護 担 当	水損防止、電気、ガス等の安全措置及び防火戸、防火シャッターの操作	点検担当として編成し、上記の消火担当の任務に同じ。
応 急 救 護 担 当	負傷者に対する応急処置	応急措置担当として編成し、危険箇所の補強、整備を行う。

自衛消防隊の編成と任務（その3 本部隊と地区隊）（例）

自衛消防隊長	_____	（自衛消防隊に対する指揮、命令、監督等を行う。）
自衛消防副隊長	_____	（隊長を補佐し、隊長が不在時は、その任務を代行する。）
地区隊長	_____	（担当区域の初動措置の指揮体制を図るとともに自衛消防隊長（本部）への報告連絡を行う。）
自 衛 消 防 隊 の 編 成 （ 平 常 時 ）		
__階 地区隊長 _____ 連絡通報担当 _____ 初期消火担当 _____ 避難誘導担当 _____ 安全防護担当 _____ 応急救護担当 _____ __階 地区隊長 _____ 連絡通報担当 _____ 初期消火担当 _____ 避難誘導担当 _____ 安全防護担当 _____ 応急救護担当 _____ __階 地区隊長 _____ 連絡通報担当 _____ 初期消火担当 _____ 避難誘導担当 _____ 安全防護担当 _____ 応急救護担当 _____ __階 地区隊長 _____ 連絡通報担当 _____ 初期消火担当 _____ 避難誘導担当 _____ 安全防護担当 _____ 応急救護担当 _____		
平常時の任務		警戒宣言、津波警報等発令時の隊編成と任務
通 報 連 絡 担 当	消防機関への通報及び通報の確認、館内への非常放送並びに指示命令の伝達、関係者への連絡	情報収集担当として編成し、テレビ、ラジオ、インターネット等により情報を収集する。
初 期 消 火 担 当	出火場所への急行、消火器等による初期消火	点検担当として編成し、担当区域の転倒・落下・移動防止措置を行う。
避 難 誘 導 担 当	出火時における避難者の誘導、負傷者及び逃げ遅れた者の確認、非常口の開放並びに開放の確認と避難障害物品の除去	平常時と同様の編成とし、本部の指揮により避難誘導を行う。
安 全 防 護 担 当	水損防止、電気、ガス等の安全措置及び防火戸、防火シャッターの操作	点検担当として編成し、上記の初期消火担当の任務に同じ。
応 急 救 護 担 当	応急救護所の設置、負傷者に対する応急処置、救急隊との連携、情報の提供	応急措置担当として編成し、危険箇所の補強・整備、救出資機材等の確認を行う。

留意事項

- 1 自衛消防隊長は、管理権原者又はこれに準ずる者を指定し、自衛消防副隊長には防火管理者又は相当職の者を指定することが望まれます。消防機関に届出する消防計画には役職名などを記入します。
- 2 地区隊長は階ごとに、受持担当区域内の責任者と通報・消火・避難などの担当者を指定することが望ましく、消防機関に届出する消防計画には役職・係名・係担当者名などを記入します。
なお、事務室等に掲出するものについては、担当者の氏名を記入し、転勤等で替わった場合は、速やかに訂正することが必要です。

自衛消防業務講習等修了者一覽

(年 月 日現在)

[illegible]

別表 9

消防訓練実施結果表

実 施 日 時	年 月 日 時 分～ 時 分		
実 施 場 所			参加人員 人
実 施 範 囲	建物： 全体 ・ 部分 (棟 階)		
	参加事業所・参加部門		
実 施 区 分	実働 ・ 体験 ・ 確認 ・ 図上研究		
実 施 内 容 (1～3については訓練内容を記録する。)	1 総合・消火・消火実放水・通報・避難・検証 2 安全防護・応急救護・地震 3 隊任務・編成・基礎行動・規律 4 消防技術会参加・出初式参加・消防演習参加		
訓 練 対 象 者	・従業員（全員・一部）、パート、アルバイト ・自衛消防隊員（全員・一部・特定の人） ・自衛消防隊 本部・地区隊（全員・一部） ・防災センター勤務者		
訓 練 想 定	火災・地震・その他 ()	発災階 () ・ 場所 ()	
訓 練 指 導 者	職 氏名		
結 果 へ の 意 見	全体評価 推奨事項・反省点		
記 入 者	職 氏名		
	主 な 訓 練 内 容		実技実施者・体験者名簿
1	自衛消防隊の各任務確認		参加人員 人 参加人員 人 参加人員 人 参加人員 人
2	火災発見時の周知方法		
3	119番通報要領		
4	防災センター、自衛消防隊への連絡要領		
5	在館者への情報伝達、避難指示要領		
6	避難誘導・介助要領		
7	応急救護の措置要領		
8	逃げ遅れた者の確認要領		
9	自衛消防隊本部の設置・運用要領		
10	身体防護（従業員等）、安全確保要領		
11	避難要領（従業員等）		
12	防災センターの運用、活用要領		
消防用設備 等・特殊消 防用設備等	1	自火報受信機、非常ベルの取扱要領	
	2	火災通報装置の取扱要領	
	3	放送設備、インターホンの取扱要領	
	4	消火器具、屋内消火栓設備の取扱要領	
	5	消火器、屋内消火栓設備の実放水体験	
	6	スプリンクラー設備、泡消火設備等の取扱要領	
	7	避難器具の取扱要領	
防火設備・ 避難施設	1	防火戸、防火シャッターの操作取扱要領	
	2	エレベーター、エスカレーターの停止要領	
	3	非常口、避難口、避難通路の確保要領	
	4	非常用エレベーター、排煙設備の操作要領	
そ の 他			

(年 月 日現在)

(備考)「受託者の行う防火管理業務の範囲」については、該当する項目の□にレ印を付すこと。